

2020年度上期 投資家説明会

2020年11月18日



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

皆さま、こんにちは。太田でございます。
常日頃より当社をご支援いただき、御礼申し上げます。

緊急事態宣言下の5月に新しい中期経営計画を発表させていただいてから半年が経過しました。

その間、コロナ禍に苦しみお客様のサポートに尽力し、
従業員の健康と安全の確保を徹底しながら、
金融サービスの円滑な提供という社会的使命を確りと果すことができたと自負しております。

ただし、中期経営計画に関しては、残念ながら良いスタートダッシュが切れたとは言えません。
早期に巡航速度にキャッチアップするべく、この下期は、ギアを一段、二段と上げて、
中計の各施策を強力に推進してまいります。

もともと、5月にも申し上げた通り、中期経営計画そのものは、
もともと中長期的な業務環境の変化を織り込んで策定されたものであり、
コロナ禍を経てもその方向性は変わりません。

むしろ、デジタル化やキャッシュレス化は、
コロナ禍によってその必要性がより強く意識されたことで、想定よりも早い速度で進んでおり、
我々も、よりスピード感を持って、各施策を実現していかなくてはならないと感じております。

3ページにお進みください。

本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。

為替レート（月末TTM）

	19/9末	20/3末	20/9末
1ドル	107.93円	108.81円	105.78円
1ユーロ	118.01円	119.52円	124.18円

本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ（持株会社）
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
SMDAM	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
BC単体	三井住友銀行単体
経費（BC単体）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門	海外ビジネス
市場事業部門	市場関連ビジネス
OCI	その他有価証券評価差額金

本日のアジェンダ

I

上期実績及びCOVID-19影響 // 4

業績サマリー	5
COVID-19影響	
①サマリー	7
②クレジットコスト	9
③与信	11
④航空機リース	12

II

Transformation & Growth // 26

中期経営計画の進捗	27
資本の有効活用	28
ソリューションプロバイダー	29
プラットフォーム	30
情報産業化	31
キャッシュレス・デジタル	32
経費・IT投資	33

III

Quality // 35

サステナブルビジネスの推進	36
気候変動リスクへの対応	37
ガバナンス	38

IV

資本政策 // 42

資本政策の基本方針	43
資本の状況	44
株主還元策	45
政策保有株式	48

V

コミュニケーション活性化 // 49

Appendix // 51

本日のアジェンダです。

まず、上期実績および新型コロナウイルスによる業務影響について、ご説明します。

その後、中期経営計画のこれまでの進捗、資本政策、そして最後に、私がCEOとして注力している、社内のコミュニケーション活性化について、ご説明します。

5ページにお進みください。



I. 上期実績及びCOVID-19影響

業績サマリー

通期業績目標進捗率は、連結業務純益57%、親会社株主純利益68%

	20年度 上期	前年 同期比	20年度 目標
1 連結粗利益	13,774	▲58	
2 営業経費 (経費率)	▲8,364 60.7%	△223 △1.4%	
3 持分法投資損益	進捗率 102	▲199	
4 連結業務純益	57% 5,512	▲34	9,700
5 与信関係費用	▲2,002	▲1,358	▲4,500
6 株式等損益	363	▲340	
7 その他	▲410	▲389	
8 経常利益	3,463	▲2,121	5,500
9 特別損益	▲44	▲250	
10 税コスト	▲714	△643	
11 親会社株主純利益	68% 2,701	▲1,618	4,000
12 ROE	5.7%	▲3.7%	

連結粗利益 債券売却益増加を主因に市場事業部門が増益となった他、リテール・ホールセール・グローバル事業部門が2Qにかけて復調トレンドにあり、僅かな減益に留まる

営業経費 COVID-19影響による事業経費抑制の他、コスト削減施策の実行によりベース経費を削減

持分法投資損益 SMBCACやアジア出資先を中心に減益

与信関係費用 COVID-19影響により国内外ともに増加

株式等損益 政策保有株式の売却益が減少
(約350億円、前年比約▲240億円)

その他 株式関連のリスクコントロールを目的とした先物取引における損失

特別損益 前年に計上したアセットマネジメント会社の再編に伴う段階取得益が剥落(約▲220億円)

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

5

上期決算のサマリーです。

親会社株主純利益の通期業績目標に対する進捗率は68%となりました。

表の4行目、連結業務純益は、新型コロナウイルスによる影響を受ける中、債券売却益の増加による市場事業部門での増益や、営業経費の抑制により、前年同期比でわずかな減益に留まりました。

5行目の与信関係費用は国内外ともに増加したものの、当初の想定を下回り、その結果、11行目の親会社株主純利益は2,701億円となりました。

7ページにお進みください。

(参考) 主要グループ会社の業績

SMBC

	20年度 上期	前年 同期比	20年度 目標
(億円)			
1 業務粗利益	7,486	+128	
2 うち資金利益	4,356	▲56	
3 うち投資信託解約損益	116	+16	
4 国内	2,716	▲58	
5 海外	1,640	+2	
6 うち役務取引等利益	1,442	▲65	
7 国内	684	▲123	
8 海外	758	+58	
9 うち特定取引利益+その他業務利益	1,679	+249	
10 うち国債等債券損益	1,050	+192	
11 経費	▲3,979	△49	
12 業務純益	3,507	+177	5,200
13 与信関係費用	▲1,286	▲1,202	▲2,900
14 株式等損益	343	▲388	
15 その他臨時損益	▲654	+402	
16 当期純利益	1,444	▲496	1,700

SMBC以外の主要グループ会社

(左: 20年度上期実績, 右: 前年同期比)

(億円)	SMBC日興 ^{*1}	SMCC	SMBCCF
業務粗利益	1,972 +278	1,884 ▲206	1,313 ▲57
経費	▲1,468 △7	▲1,526 △52	▲521 △38
業務純益	503 +285	360 ▲154	792 ▲18
当期純利益	398 +208	189 ▲127	438 +34

(持分法適用)

	SMBC信託	SMDAM ^{50%}	SMFL ^{*2} ^{50%}
業務粗利益	182 ▲69	159 ▲21	803 ▲106
経費	▲221 △22	▲160 ▲1	▲413 △7
業務純益	▲39 ▲47	▲0 ▲22	412 ▲102
当期純利益	▲60 ▲67	▲6 ▲16	127 ▲214

*1 SMBC日興の海外持分法適用関連会社 (SMFGの連結子会社) の利益を含む内部管理ベース *2 内部管理ベース

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

COVID-19影響 ①サマリー

上期のCOVID-19影響は期初予想比下振れ
ただし、感染再拡大を含め依然不透明な環境が継続しており、通期の業績予想は据置き

(億円)	通期予想		COVID-19影響			20年度上期			
	20年2月 時点	5月公表	予想		実績	5月公表 予想	COVID-19 影響予想比	その他 上振れ	実績
	A	B	通期 C	うち上期 D	上期 E	F	G	H	I
連結業務純益	11,400	9,700	▲1,700	▲1,200	▲600	4,200	¹ +600	² +700	5,512
与信関係費用	▲1,900	▲4,500	▲2,600	▲2,000	▲1,000	▲3,000	³ +1,000	-	▲2,002
親会社 株主純利益	7,100	4,000	▲3,100	▲2,300	▲1,100	1,000	+1,200	+500	2,701
リスクアセット	87兆円	92兆円	累計+5兆円		累計+3兆円				
CET1比率 (増減)	10%	9.5%	9.5% (▲0.5%)		9.7% (▲0.3%)				
COVID-19影響はすべて概算値									
経費率	19年度 62.8%		20年度上期 60.7%		COVID-19影響による 事業経費の抑制				

- SMCC・SMBCCF・BTPN等で下振れるも、貸金収益・資産運用ビジネス等が上振れ
- 市場事業部門の上振れが主因
- 各国の政策効果や流動性支援もあり下振れ

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 7
All Rights Reserved.

業績における新型コロナウイルスの影響についてご説明します。

C列にお示しているのが、5月に通期業績におけるコロナ影響としてお伝えした数字です。
D列にはそのうち上期に発生すると見込んでいた数値、
またE列には実際に上期に発生したコロナ影響をお示しております。

連結業務純益については、▲1,700億円のマイナス影響のうち、
上期の発生分は▲1,200億円と見ておりました。

クレジットカードやコンシューマーファイナンスビジネス等、我々が本来得意とする分野で
大きなマイナス影響がありました。一方で、貸金収益や資産運用ビジネスが好調に
推移したことから、実際のマイナス影響は▲600億円に留まりました。

これは、G列にお示しのように、5月予想比+600億円の利益上振れにつながり、
さらに、H列にお示しのように、市場事業部門の上振れ等が+700億円あったことから、
上期の連結業務純益は、5月の公表予想から+1,300億円程度上振れ、
5,512億円となりました。

クレジットコストは、通期でのコロナ影響▲2,600億円のうち、▲2,000億円が上期に発生するとみて
おりましたが、各国の経済政策や流動性支援のおかげで、
実際には▲1,000億円の影響となり、5月予想比+1,000億円程度下振れました。
したがって、5月の公表予想では上期▲3,000億円の発生と見ていたクレジットコストですが、
▲2,002億円の実績に留まっております。

これらの結果、上期のボトムラインは、1,000億円の公表予想に対し、
2,701億円と大きく上振れて着地しました。

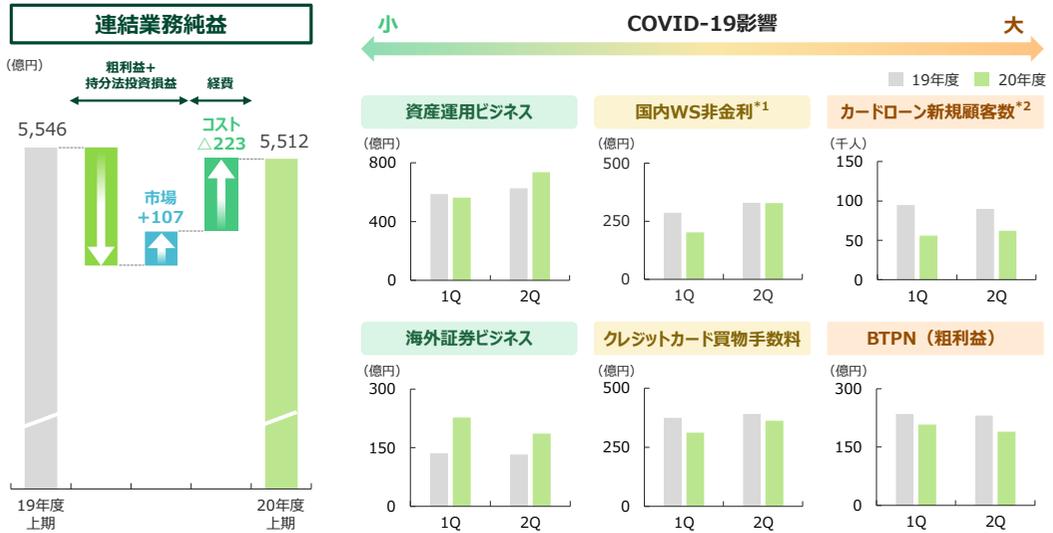
数字だけを見ると、堅調な決算のように思われるかもしれませんが、
私としては、この数字ほどの安心感はないと思っております。

新型コロナウイルスの感染拡大を含め、依然として先行き不透明な環境が
継続していることに加え、上期にみられたような市場事業部門の収益上振れを
見込んでいないこと等により、通期予想は変更しておりません。

9ページにお進みください。

(参考) 連結業務純益におけるCOVID-19影響

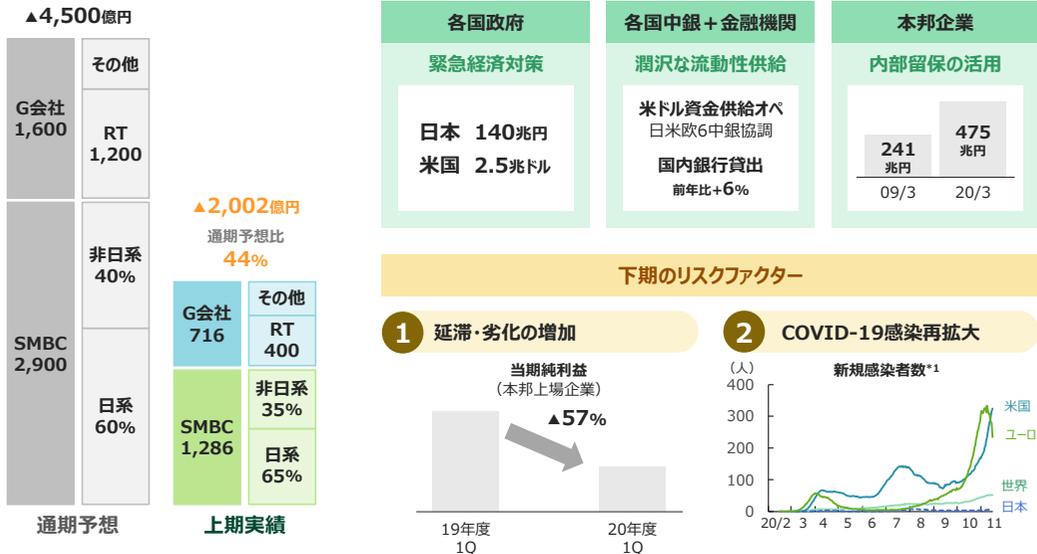
市場事業部門の健闘およびCOVID-19影響等によるコスト減少を主因に、連結業務純益は前年並を確保



*1 シンジケーション、ストラクチャードファイナンス、不動産ファイナンス、証券 *2 SMBCCF

COVID-19影響 ②クレジットコスト

各国の政策効果や流動性支援により、上期のクレジットコストは想定を下回るも、
 上期に抑制された延滞・劣化の顕在化やCOVID-19再拡大の懸念等から、通期予想は据置き



*1 Bloombergを基に日本総研作成 (週間、人口10万人当たり)

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. 9

クレジットコストについて、もう少しご説明します。

左側に、上期実績▲2,002億円の内訳をお示しておりますが、SMBCとそれ以外のグループ会社、日系・非日系の比率については、概ね期初の想定通りとなりました。

また、業種についても、想定していた先からの発生が中心となっております。

通期予想に対して44%の水準に留まったことについては、国内の企業がリーマンショック以降資本蓄積を進め変事抵抗力が高いことに加え、先ほどもお伝えした通り、各国政府の経済対策や中銀・金融機関の流動性供給によって想定よりデフォルトが低水準であったことが主な要因とみています。

一方で、下期は、上期に抑制された延滞・劣化の増加が顕在化する懸念や、現在の欧米で見られるような新型コロナウイルスの感染再拡大等のリスクファクターがあることを踏まえ、通期の予想は据置としております。

11ページにお進みください。

(参考) SMBCクレジットコスト内訳

	日系	非日系
与信関係費用 1,286 億円 (上期実績)	65%	35%
特定業種 占有率	80%超	80%超
	<ul style="list-style-type: none"> 自動車・同部品 レジャー・ホテル 空運 外食 石油・ガス 	
企業規模	中堅・中小は 期初想定比 低水準	大企業 中心

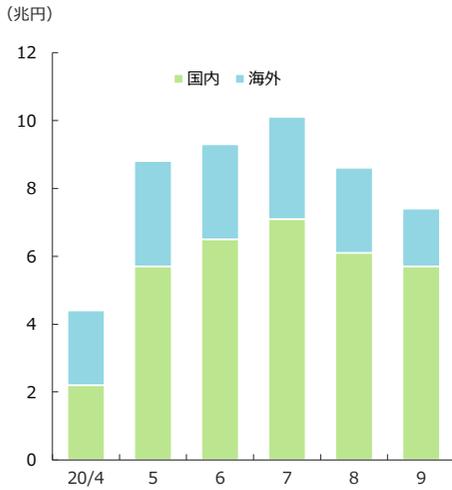
非日系詳細

	与信残高	ポイント
レジャー・ホテル	0.6 兆円	<ul style="list-style-type: none"> レジャー関連事業者中心に発生
空運	0.9 兆円	<ul style="list-style-type: none"> 大手エアライン向け航空機担保付貸金を中心にディスプリンを利かせつつ取組
外食	0.1 兆円	<ul style="list-style-type: none"> LBO先中心に発生 (下記「欧米LBO」参照)
石油・ガス	6.5 兆円	<ul style="list-style-type: none"> 上流・サービス案件は抑制的に運営 油価は期初想定を上回る水準で推移
欧米LBO	80 億ドル	<ul style="list-style-type: none"> 市況を踏まえた残高コントロール 業種選別、コベナント設定
CLO	投資残高 12 億ドル	<ul style="list-style-type: none"> 全てAAA格 残高抑制を継続

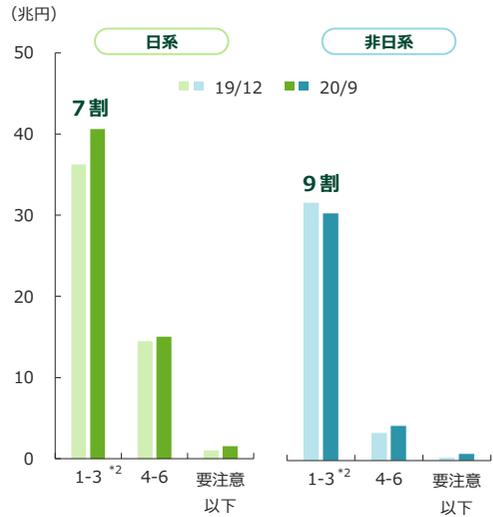
COVID-19影響 ③与信

COVID-19関連与信は積極的な資金支援により増加するも、7月をピークに返済が進み減少
国内外ともに、健全な与信ポートフォリオを維持

COVID-19関連与信*1



格付別与信エクスポージャー



*1 SMBC及び主要現地法人 *2 デフォルト確率で日系は0.1%以下、非日系は0.8%以下に相当

次に、コロナ関連与信です。

左側ですが、資金繰り支援のためにお客さまからの貸出要請に積極的に対応してきたことで、コロナ関連与信はピークで10兆円まで積み上がりました。7月以降は海外を中心にお客さまからの返済が進んだことで、残高は減少に転じており、9月末では7兆円強となっております。

また、右側には格付別の与信構成をお示しておりますが、これらの与信を加算しても、国内外ともに健全な与信ポートフォリオを維持しております。

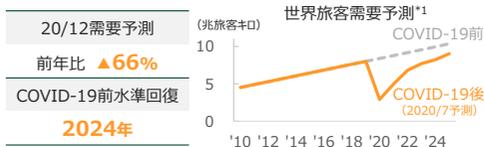
12ページにお進みください。

COVID-19影響 ④航空機リース

COVID-19影響の深刻化・長期化により引当・減損が拡大するも、今後の持続的成長に向けた施策に注力

業況

旅客需要下振れ



エアライン破綻

各国政府による支援が不十分な新興国中心に発生

機体の早期退役

ただし、大型機・高齢機中心で、現状SMBCACでは機体返却なし

SMBCAC

(百万米ドル)	FY19上期	FY20上期	FY19通期
リース収入	565	571	1,135
引当・減損	▲5	▲125	▲32
当期純利益	189	19	334

取組

市況悪化を乗り切るべく、従来、強固なビジネスを構築

機体ポートフォリオ	ワイドボディ (A350-B787) / B737 MAX	ナローボディ 80%超	平均機齢 4.3年
クレジット把握力	経営陣5名の業界経験 各30年		
流動性	S&P格付 A- 同業トップ	未引出借入枠 50億米ドル	

リスク低減・収益増強策を加速

機体メーカー	発注済機体の引渡延期 Boeing 68機 他	リスク量 ↓
エアライン	機材の継続使用交渉	減損額 ↓
優良エアライン	高採算セール&リースバック取組 COVID-19前対比2倍のROA	収益 ↑

*1 IATA / Tourism Economics

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 12

皆さまからの関心も高い航空機リース事業の状況について、アップデートします。

5月の説明会以降、航空セクターにおけるコロナ影響は、さらに深刻化しました。世界の航空需要は、一時、前年比で▲9割近くまで減少した上、新興国を中心にエアラインの破綻も発生しました。

現在、各国のエアラインは、国内線を中心に持ち直してきてはいるものの、夏のバカンスシーズンの回復も力強さを欠いており、厳しい業況が続いていると言わざるを得ません。

その結果、SMBC Aviation Capitalでも、リース料の未払や減額が想定以上に発生したことにより、引当・減損額も膨らみ、上期のボトムラインは前年比▲9割の大幅な減益となりました。残念ながら、下期においても業況の劇的な改善は見込まれないため、通期の業績も、上期同様厳しい水準になると見ております。

しかしながら、業界全体が未曾有の危機に直面する中においても、従来の強みがさらに発揮されております。

SMBC Aviation Capitalが、ナローボディ主体、かつ機齢の若いポートフォリオを構築してきたのは、現在直面しているようなマーケット環境の大幅な悪化を乗り切るためであり、今のところ破綻したエアラインからも機体の返却は受けておりません。

また、優良エアラインが手許資金を確保するために、自社で保有する機体をセール&リースバックする動きが見られ、需給の逆転から高採算の案件も出てきています。

当面は厳しい業況が続くものの、SMBC Aviation Capitalの機体が多く使用されている国内線や短・中距離の国際線は、市場全体よりも早期に回復していくことが見込まれます。引き続き、これまで培ってきた強みを活かして、この難局を乗り越え、さらには中長期的な成長を目指してまいります。

26ページにお進みください。

(参考) COVID-19への対応

世界的な危機を乗り越えるべく、ステークホルダーのみなさまを全力でサポートしてまいります

お客さま

- SMBCの国内全支店・ATMの営業を継続
- 緊急の資金需要への対応 **ピーク時10兆円**



個人

- 特別金利や当初1年間無利息等でのローン提供
(SMBC、SMBCコンシューマーファイナンス、三井住友カード)

法人

- 日銀による特別オペレーションを活用した支援ファンド
 - サプライチェーンマネジメントファンド : 6,000億円
 - 新型コロナウイルス対策特別ファンド : 4,000億円
- 信用保証協会保証や自治体制度を活用した融資
- 新規借入・条件変更等への柔軟な対応
 - ビジネスセレクトローンの取扱手数料免除
 - 審査プロセスや条件変更の柔軟化
- 医療系ベンチャー等をサポートする投資ファンドの立ち上げ

従業員

- 雇用・給与の維持
- テレワーク・スプリット運営
- 支店・オフィスの感染予防の徹底
- 問診メールによる健康状態の把握
- メンタルケア相談窓口設置



地域・社会

- 医療、教育・福祉、文化芸術活動を支援
(寄付総額15億円)
- SMBC at Homeプロジェクト
 - ネットバンキングの取引に応じた寄付



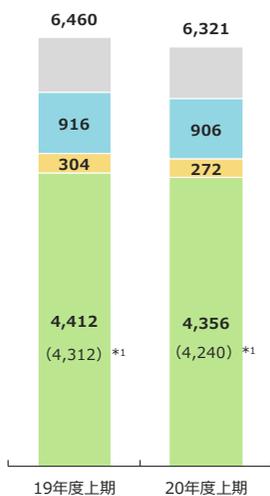
Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

連結粗利益

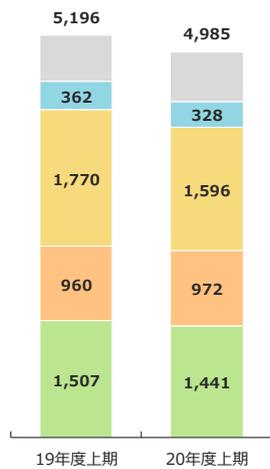
■ SMBC ■ SMBC日興 ■ SMCC ■ SMBCCF ■ その他

資金利益

(億円)



役務取引等利益



特定取引+その他業務利益



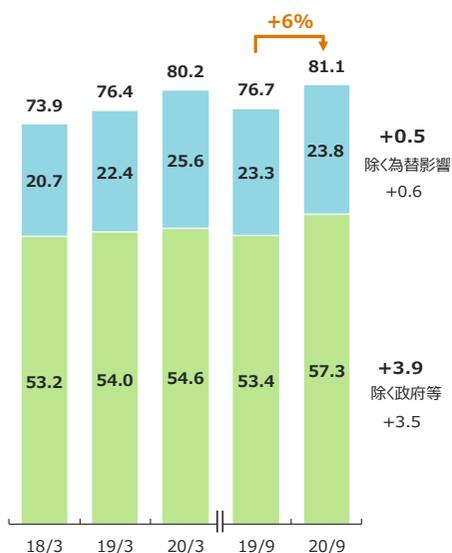
*1 投資信託解約損益を除く

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

貸出金*1

貸出金残高

(兆円) ■ 国内店 ■ 海外店および特別国際金融取引勘定



*1 BC単体 *2 内部管理ベース

*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。貸出金・貿易手形・有価証券の合計 *4 為替影響等調整後ベース

国内預貸金利回差

(%)	20年度 上期	前年 同期比	1Q	2Q
貸出金利回	0.83	▲0.08	0.84	0.82
預金等利回	0.00	△0.00	0.00	0.00
預貸金利回差	0.83	▲0.08	0.84	0.82

(参考) 政府等向け貸出金控除後

(%)	20年度 上期	前年 同期比	1Q	2Q
貸出金利回	0.86	▲0.08	0.87	0.85
預貸金利回差	0.86	▲0.08	0.87	0.85

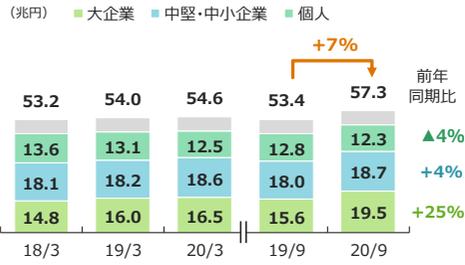
期中平均貸出金残高・スプレッド*2

	平均残高 (兆円)		スプレッド (%)	
	20年度 上期	前年 同期比*4	20年度 上期	前年 同期比
国内貸出	56.6	+4.4	0.70	▲0.04
除く政府等・SMFG向け	53.6	+4.1	0.73	▲0.04
うち大企業	19.2	+3.4	0.50	▲0.03
中堅・中小企業	18.6	+1.2	0.60	▲0.03
個人	12.4	▲0.6	1.44	▲0.03
グローバル事業部門 運用資産*3	3,419 億ドル	+394 億ドル	1.15	+0.04

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

国内預貸金*1

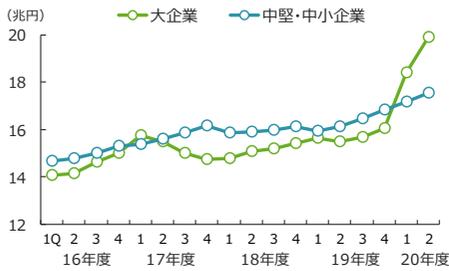
貸出金残高*2



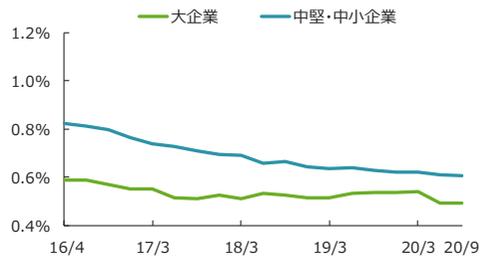
預金残高



法人向け平均貸出金残高*2,3



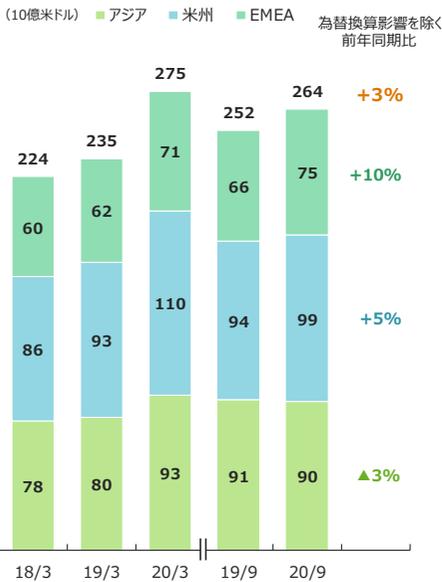
法人向け貸出金スプレッド*2,4



*1 BC単体 *2 内部管理ベース *3 四半期平残、政府向け等を除く *4 ストックベース、政府向け等を除く

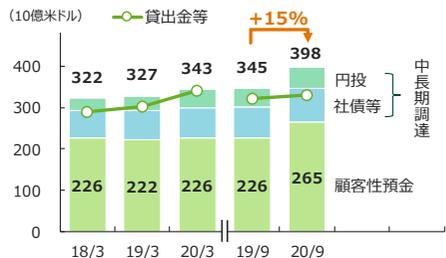
海外預貸金*1

貸出金残高

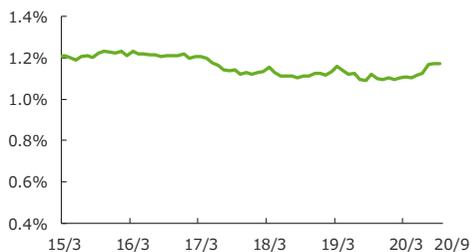


*1 内部管理ベース。SMBCと主要現地法人の合算
*2 月次、ストックベース

外貨ファンディング



貸出金スプレッド*2



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

アセットクオリティ

与信関係費用*1



連単差の主な内訳 (概数)

(億円)	20年度上期	前年同期比
SMBCCF	▲ 270	△ 70
SMCC	▲ 110	△ 40

不良債権残高*2



総与信末残

	(兆円)		
連結	91	96	98
BC単体	89	93	94

その他要注意先 (除く要管理債権)

BC単体	0.8	0.9	1.7
------	-----	-----	-----

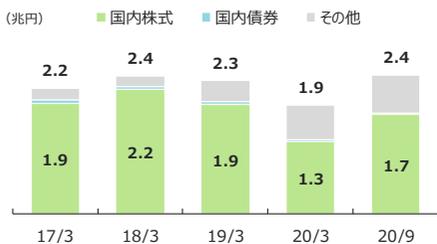
*1 与信関係費用比率 = 与信関係費用 / 総与信 *2 不良債権比率 = 金融再生法開示債権残高 (除く正常債権) / 総与信

有価証券①

■ その他有価証券の内訳（連結）

	残高		評価損益	
	20/9末	20/3末比	20/9末	20/3末比
合計	290,633	+24,141	24,254	+5,331
国内株式	31,822	+4,454	17,420	+4,724
国内債券	134,479	+33,805	236	+21
うち 国債	102,893	+32,014	▲47	+24
その他	124,332	▲14,118	6,598	+586
うち 外債	101,919	▲14,577	1,694	▲863

■ 評価損益の推移

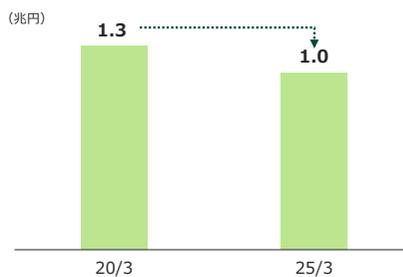


■ 政策保有株式

削減状況 (20/9末)	削減額	310億円
	未売却の売却応諾残高	450億円
	削減・応諾済総計	760億円

■ 削減計画

2020～24年度（5カ年）で△3,000億円削減



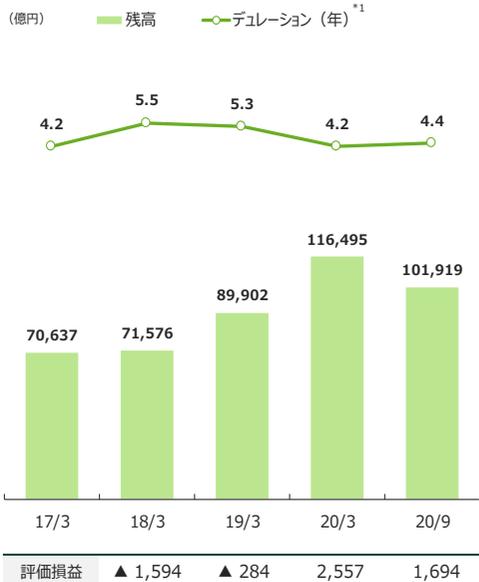
Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

有価証券②

円債（連結）



外債（連結）



*1 SMBC単体。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含みます。円債では、15年変動利付国債のデレージョンはゼロで計算

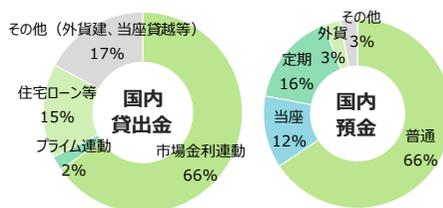
バランスシート

連結B/S

(兆円)	20/9末	20/3末比
資産の部合計	225.8	+5.9
うち 現預金	68.5	+6.7
うち 日銀当座預金 (BC単体)	56.6	+7.9
うち 貸出金	84.5	+2.0
うち 国内貸出金 (BC単体)	57.3	+2.7
うち 大企業 ^{*1}	19.5	+3.0
中堅・中小 ^{*1}	18.7	+0.1
個人 ^{*1}	12.3	▲ 0.2 ^{*2}
うち 有価証券	29.2	+2.1
うち その他有価証券	29.1	+2.4
うち 株式	3.2	+0.4
国債	10.3	+3.2
外国債券	10.2	▲ 1.5
負債の部合計	214.5	+5.4
うち 預金	137.9	+10.9
うち 国内預金 (BC単体)	109.2	+7.0
個人	51.7	+2.6
法人	57.5	+4.4
うち 譲渡性預金	10.2	+0.1
純資産の部合計	11.3	+0.5
預貸率	57.0%	

*1 内部管理ベース *2 住宅ローン証券化分 (20年度上期: 509億円) の加算調整後
*3 SMBCと主要現地法人の合算

貸出金・預金の構成比 (BC単体)^{*1}



外貨B/S^{*1,3}

(10億米ドル)	
貸出金等 330	顧客性預金 (含む中銀預金) 265
その他 157	中長期調達 (社債、円投等) 133
外債、NCD 66	CD/CP 77
	イナ-ハ-ンク (含む ^注) 80
資産・負債	555

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

資本・リスクアセット

	20/9末	所要水準 ^{*1}
自己資本比率		
総自己資本比率	19.28%	11.5%
CET1比率（完全実施基準）	16.02%	8%
除くOCI	13.2%	-
CET1比率（バーゼルⅢ最終化）	11.3%	8%
除くOCI	9.7%	-
外部TLAC比率		
リスクアセットベース	26.72%	16%
レバレッジエクスポージャーベース	10.25%	6%
レバレッジ比率	5.85%	3%
LCR（20年度2Q平均）	136.0%	100%

	20/3末	20/9末
(億円)		
総自己資本	115,520	120,280
Tier1資本	102,499	107,638
うちCET1資本	95,813	99,942
Tier2資本	13,021	12,642
外部TLACの額	181,620	188,682
リスクアセット	615,991	623,792
レバレッジエクスポージャー	2,374,887	1,839,387

*1 カウンターシカリカルバツファー（CCyB）勘案せず

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 22
All Rights Reserved.

事業部門別実績①

	ROCE1*1			業務純益（億円）			リスクアセット（兆円）		
	20年度上期	前年同期比*2	22年度計画*3	20年度上期	前年同期比*2	22年度計画*3	20年度上期	前年同期比*2	20-22年度*3
リテール	9.6%	+0.4%	12%	1,066	▲73	3,050	12.1	△0.7	+0.4
ホールセール	3.7%	▲7.3%	9%	1,604	▲90	4,050	32.9	+3.4	+1.1
グローバル	5.9%	▲2.9%	9%	1,746	+41	4,300	33.9	+1.4	+2.5
市場	24.0%	+2.7%	17%	2,348	+116	3,650	4.6	△0.7	+1.7

*1 除く外貨中長期調達コスト、市場は含むバンキング勘定の金利リスク見合い

*2 金利・為替影響等調整後

*3 20年度基準での内部管理ベース

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 23
All Rights Reserved.

事業部門別実績②

■ リテール

	(億円)	20年度 上期	前年比 ^{*1}
業務粗利益		5,487	▲ 234
預貸金収益 ^{*2}		620	▲ 48
資産運用ビジネス		1,297	+85
決済ビジネス		1,884	▲ 215
コンシューマーファイナンス		1,479	▲ 60
経費		▲ 4,433	△ 158
ベース経費		▲ 3,651	△ 54
業務純益		1,066	▲ 73
ROCET1 ^{*3}		9.6%	+0.4%
リスクアセット (兆円)		12.1	△ 0.7

■ ホールセール

	(億円)	20年度 上期	前年比 ^{*1}
業務粗利益		2,825	▲ 145
預貸金収益		1,045	+72
外為・為替手数料		573	▲ 44
SMBC シンジケーション		215	+61
ストラクチャードファイナンス		43	▲ 94
不動産ファイナンス		32	▲ 15
証券		240	▲ 37
経費		▲ 1,466	△ 28
ベース経費		▲ 1,460	△ 34
業務純益		1,604	▲ 90
ROCET1 ^{*4}		3.7%	▲7.3%
リスクアセット (兆円)		32.9	+3.4

*1 金利・為替影響等調整後ベース *2 除くコンシューマーファイナンス
*3 除く利息返還損失引当金繰入等 *4 除く外貨中長期調達コスト

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 24
All Rights Reserved.

事業部門別実績③

■ グローバル

	20年度 上期	前年比 ^{*1}
業務粗利益	3,434	+198
預貸金収益	1,410	+57
ローン関連手数料	609	+83
証券	413	+145
経費	▲ 1,777	△ 8
ベース経費	▲ 1,735	△ 30
業務純益	1,746	+41
ROCE1 ^{*2}	5.9%	▲2.9%
リスクアセット (兆円)	33.9	+1.4

■ 市場

	20年度 上期	前年比 ^{*1}
業務粗利益	2,579	+107
SMBC市場営業部門	1,940	▲ 4
経費	▲ 402	▲ 9
ベース経費	▲ 391	▲ 6
業務純益	2,348	+116
ROCE1 ^{*3}	24.0%	+2.7%
リスクアセット (兆円)	4.6	△ 0.7

*1 金利・為替影響等調整後ベース *2 除く外貨中長期調達コスト
*3 含むバンキング勘定の金利リスク見合い

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 25
All Rights Reserved.



Ⅱ. Transformation & Growth

ここからは、この4月にスタートした中期経営計画について、
主な取組を簡単にご説明します。

27ページにお進みください。

中期経営計画の進捗

中期経営計画（20～22年度）

基本方針

Transformation

既存ビジネスのモデル改革

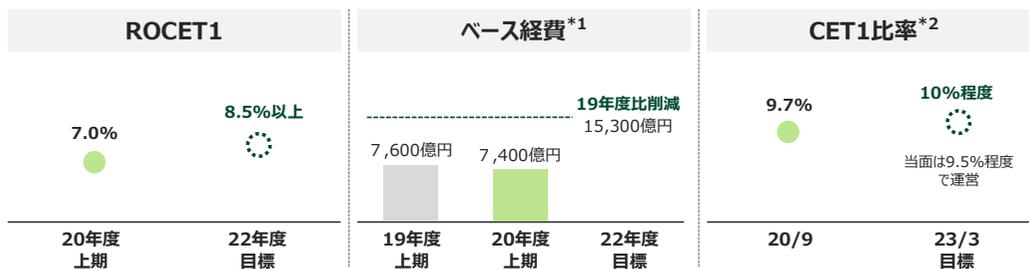
Growth

新たなビジネス領域への挑戦

Quality

あらゆる面での質の向上

財務目標



*1 営業経費から「収益連動経費」「先行投資にかかる経費」等を除いたもの *2 バンセルⅢ最終化・除くOCI

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 27

まずは、財務目標の進捗です。

今年度のROCET1は、大幅なボトムラインの減益予想を受けて、目標対比低水準に留まる見込みです。

一方で、ベース経費は、初年度は増加すると見ていましたが、コロナ禍で事業活動が抑制されたほか、コスト削減施策にも取り組んだことで、前年同期を下回る水準となりました。

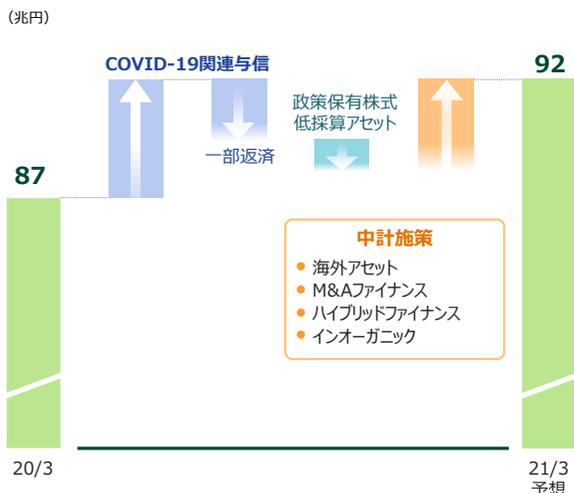
CET1比率については、コロナ対応と信の影響も織り込んで、当面は、中計の目標から0.5%切り下げた9.5%程度を運営の目線としており、9月末は9.7%と、このレンジ内の水準となっております。

28ページにお進みください。

中期経営計画の進捗 ①資本の有効活用

中計施策への資本活用を通じ、トップラインの拡大と将来に向けた成長を追求

リスクアセットの増減イメージ



インオーガニック戦略

売却

関西地銀株式の完全売却 20~21年度

取得

資産・資本効率の高いアセット

AM	AIM	20/10
	イー・アイ・キャピタル	20/11

将来のプラットフォーム

デジタル	OakNorth	20/10
証券	SBIネオモバイル・マネープラザ	20年度

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 28

本中期経営計画における事業戦略のテーマは「Transformation & Growth」です。

すなわち、抜本的な効率化とビジネスモデル改革に取り組むとともに、成長分野にはしっかりと資本を投入していく方針です。

左側は、今期のリスクアセットの増減イメージをお示ししています。期初には、リスクアセットが、コロナ関連与信を含めて5兆円積み上がると見ておりましたが、先ほど申し上げたように、既に一部で返済が進んでいます。

また、中計では5兆円のリスクアセットを成長分野に投入していく計画ですが、トップライン拡大と将来の成長に向けて、しっかりとこれを実行してまいります。もちろん、政策保有株式や低採算アセットの削減にも、継続して取り組んでまいります。

インオーガニック戦略においても、関西地銀株式を完全売却する一方、資産・資本効率の高いアセットや、デジタルなど将来の成長が期待できる分野への投資を進めております。

29ページにお進みください。

中期経営計画の進捗 ②ソリューションプロバイダー

マーケットや環境の変化により顕在化したお客さまの課題やニーズに対し、グループ一体でソリューションを提供

国内法人ビジネスのソリューション強化

事業再編・再生支援

事業再編	親子上場解消、業界内再編
資本性 ファイナンス	ハイブリッド・ファイナンス等
企業再生投資 (エクイティ)	事業再生投資子会社設立 SMBC SMBCキャピタル・パートナーズ

人事ソリューションの提供

出向ニーズ マッチング	<p>人員余剰 (レジャー、飲食等) ↔ 人員不足 (医療、IT等)</p>
人材紹介	SMBC SMBCヒューマン・キャリア 2020年4月設立

海外CIBビジネスの高度化

銀×証ワンストップでのファイナンス提案

クロスボーダー M&Aファイナンス	外銀勢と競合する大型案件で アドバイザー獲得
プロジェクト ファイナンス	米国のガスパイプライン案件組成 ローン・ボンド双方で、リードロール獲得

クロスセルの推進

DCM	COVID-19緊急支援先より捕捉
デリバティブ	起債やローン関連の付帯取引獲得



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 29

続いて、5月に中期経営計画を発表した際に、我々が中長期的に目指す姿としてお示した、3つのキーワードに沿って、これまでの取組をご説明してまいります。

まず、「ソリューションプロバイダー」です。

左側、国内の法人ビジネスでは、親子上場解消や業界内の再編に対するサポートに加え、お客さまの資本増強ニーズに対応するため、ハイブリッド・ファイナンスや企業再生投資といったファイナンス手段を拡充しました。

さらに、下段にお示しの通り、ファイナンスのみでなく、人事を含めた多様なソリューションの提供に取り組んでまいります。

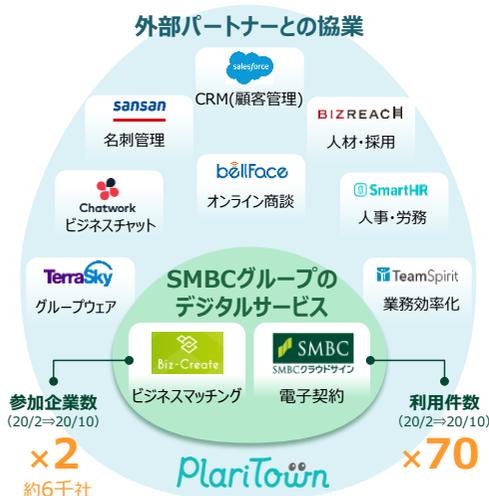
右側、海外では、クロスボーダーM&Aファイナンスにおいて、これまで外銀勢に取られていた主要なポジションを大型案件で獲得したほか、米国での起債ニーズの高まりを受けて、緊急支援先を中心にDCMやデリバティブのクロスセルを推進する等、CIBビジネスの高度化に向けた取組を加速しています。

30ページにお進みください。

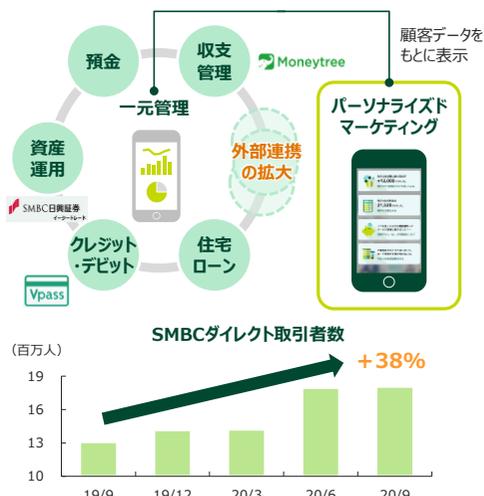
中期経営計画の進捗 ③プラットフォーム

デジタル・リモートへのニーズの高まりを背景に、プラットフォームの構築・集客を推進

中堅・中小企業のデジタル化支援



SMBCアプリのプラットフォーム化



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

30

次に「プラットフォーム」です。

左側の「Plari Town」は、今年8月にスタートした、中堅・中小企業のデジタル化を支援するためのプラットフォームです。

また、右側の「SMBCアプリ」は、個人のお客さま向けに、様々な金融情報を一元管理できるよう、アップグレードを重ねています。

いずれの取組も、新型コロナウイルスの感染拡大により、デジタル化・リモート化へのニーズが大きく高まったことが追い風となり、利用が急増しております。

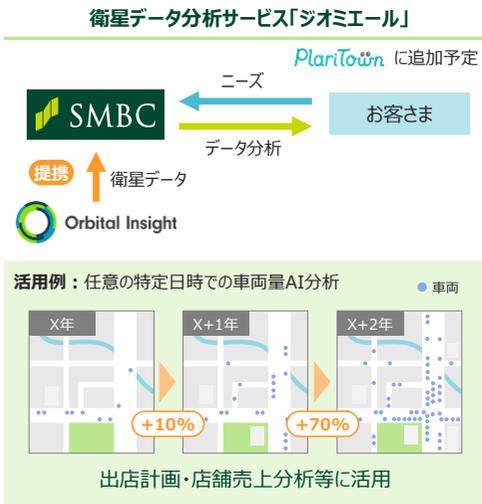
この風に乗って取組をさらに加速し、手数料収入の拡大やマーケティングの高度化等、プラットフォームとしてのビジネスモデルを確立してまいります。

31ページにお進みください。

中期経営計画の進捗 ④情報産業化

先進技術の活用や外部パートナーとの連携により、事業化に向けて着実に取組

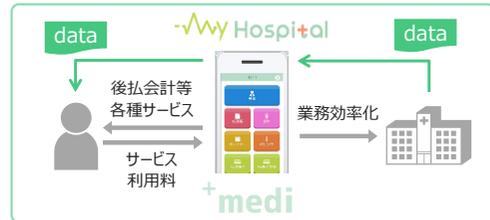
AIを活用したサービスの提供



情報銀行の事業化

Phase 1 大学病院との実証実験

Phase 2 プラスメディ連結子会社化



金融機関としての
データ管理知見



医療関係の
お客さま基盤

Phase 3 情報銀行エコシステムの実現

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 31

3つ目のキーワードは、「情報産業化」です。

左側の衛星データ分析サービスは先日リリースしたばかりですが、
このようにAIを活用した付加価値の高いサービスの提供を、今後も拡充してまいります。

また、右側の情報銀行についても、大学病院との実証実験を経て、
スマートフォンアプリで医療データの管理サービスを提供する、プラスメディを
連結子会社化しました。

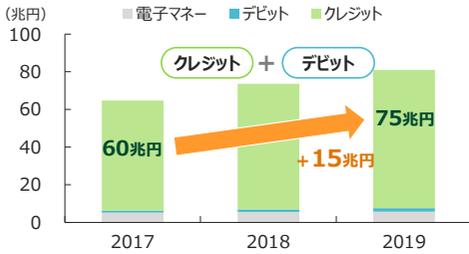
今後も、情報銀行エコシステムの実現を目指し、取り組んでまいります。

32ページにお進みください。

中期経営計画の進捗 ⑤ キャッシュレス・デジタル

クレジットカードを軸としたキャッシュレス戦略

日本のキャッシュレス化はクレジットカードが牽引*1



次世代決済プラットフォームの展開

stera



多様な業種で導入が進展



*1 出典：日本銀行、日本クレジット協会、内閣府

リモート・キャッシュレスへのシフト促進



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

32

続いて、コロナ禍によって一層の加速が求められる、キャッシュレス・デジタルへの取組です。

左上グラフの通り、日本のキャッシュレス市場の拡大はクレジットカードが牽引しており、少額決済分野でQRコード決済などの電子マネーが一定普及したとしても、大きなトレンドは変わらないと見ております。

したがって、SMBCグループでは、引き続き、業界トップクラスの三井住友カードを軸としたキャッシュレス戦略を展開してまいります。

昨年度、次世代決済プラットフォームのsteraをリリースしましたが、その決済端末であるstera terminalも、ご覧の通り様々な業種で導入が進んでおります。

今後も、steraを通じて、日本のキャッシュレス決済市場全体の拡大に貢献するとともに、マーケットにおける我々のシェア拡大に取り組んでまいります。

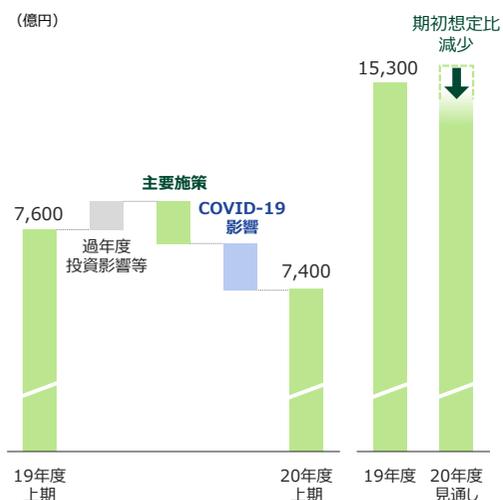
また、右側ですが、デジタル取引やキャッシュレス決済を、お客さまがより一層ご利用いただきやすくなるよう、手数料を新設・改定いたしました。今後も、デジタル・キャッシュレスが身近で魅力的なものとなるよう、サービスの向上に努めてまいります。

33ページにお進みください。

中期経営計画の進捗 ⑥経費・IT投資

ベース経費はCOVID-19影響による事業経費の抑制と主要施策の実行により減少
IT投資はCEO枠の活用により、デジタルトランスフォーメーションを加速

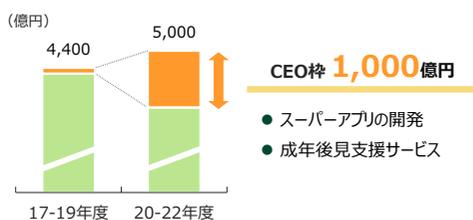
ベース経費*1



主要施策

主要施策	削減目標
国内のビジネスモデル改革	△500億円
リテール店舗改革	△250億円
グループベースの業務集約・共通化	△250億円
合計	△1,000億円

IT投資



*1 営業経費から「収益連動経費」「先行投資にかかる経費」等を除いたもの

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

33

Transformation & Growthの最後は、コストコントロールです。

中計初年度のベース経費は、期初時点では前年比で増加する計画でしたが、コロナ禍で営業活動が抑制されたこともあり、上期は前年同期比△200億円の減少となりました。

右上の主要施策については、コロナ影響で立ち上がりが遅くなっているものもありますが、下期以降しっかりと巻き返しを図り、3年間で△1,000億円削減という中計で掲げたゴールを目指してまいります。

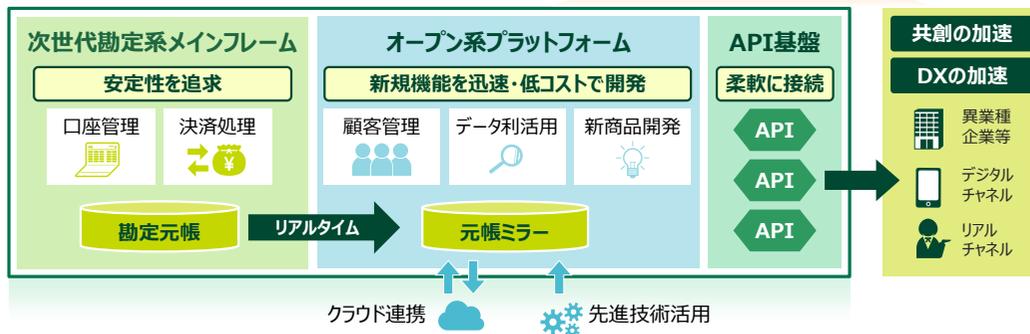
34ページにお進みください。

次世代勘定系システムの開発

デジタルトランスフォーメーション（DX）を支える次世代勘定系システムの開発に着手

1994	2002	2021-25	総投資：500億円
4次オンライン化	システム統合	次世代勘定系システム	
<ul style="list-style-type: none"> オンライン処理24時間化 アプリケーション部品化 	<ul style="list-style-type: none"> 旧さくら・住友銀行の勘定系システム統合 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインサービスの完全無停止化 グローバル決済の即時化・時限延長 グループベースの統合顧客管理 全勘定系データのリアルタイム分析 	

勘定系の安定性を向上しつつ、環境変化に迅速・柔軟に対応可能なアーキテクチャへ刷新



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 34

先日発表した次世代勘定系システムです。

資料の上段に、我々の勘定系システムの変遷をごく簡単にお示しております。

まだ合併前の1994年、住友銀行が邦銀初となるいわゆる「4次オンライン化」を行って勘定系システムを全面刷新し、オンライン処理の24時間化等を実現しました。

さらに、2002年には、合併後いち早く、旧さくら・住友のシステム統合を完了し、それ以降特に大きな障害もなく、また大震災への対応力も強化する等、安定性とセキュリティに強みを持ったシステムだと自負しております。

今回、お客さまへのサービス価値向上と業務プロセスのデジタル化をより一層推進するため、次世代勘定系システムの開発に着手しました。これにより、これまで日曜夜間は停止していたインターネットバンキングでの振込やコンビニATMでの入出金が取扱可能になるほか、外国送金等も24時間即時で行えるようになります。

なお、今回の総投資額は500億円を見込んでおり、リリース当日には、「随分少ないが大丈夫か」といったご心配の声もあったと聞いております。しかし、これまでいち早く勘定系システムのアップデートを行ってきた当社には、ベースとなるシステムが既に構築されているため、この圧倒的な低コストでも、十分な開発が可能です。

引き続き、安定的かつ、デジタルトランスフォーメーションも含めた将来の変化に柔軟に対応可能なシステムを構築することで、グローバルソリューションプロバイダーとしての地位を確固たるものにしてまいります。



Ⅲ. Quality

次に、経営基盤における基本方針、Qualityについて、ESGへの取組を中心にご説明します。

36ページにお進みください。

ESGへの取組 ①サステナブルビジネスの推進

グリーンファイナンス

KPI 2030年までに**10%増**

グリーンローン

- 2020年上期リーグテーブル（グリーンローン組成額）*1

アジア
1位 (1,083\$M)

- SDGsグリーンローンによる当初のプロジェクトファイナンス組成、外部評価機関より最上位のグリーンローン評価を取得。

ESGファイナンスアワード

- グリーンボンド発行支援が評価され、SMBC日興が環境大臣賞（銀賞）を受賞

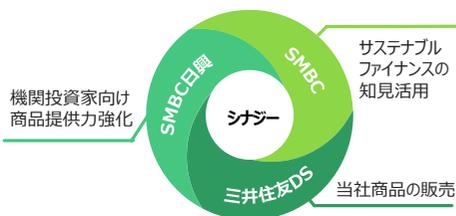


*1 出典:Dealogic

ESGファンドへの出資



- インパクト投資に特化
- AuM650百万米ドル



GREENxGLOBE Partners

- 20社の賛同企業とともに7月に設立
- 1.6万社超を対象としたオンラインイベントでセミナーを実施



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

36

まず、サステナブルビジネスの推進です。

左側、グリーンローンのリーグテーブルにおいて、アジアで1位を獲得したほか、ESGファイナンスアワードを受賞するなど、着実にプレゼンスを向上させております。

また、右側ですが、サステナブルビジネスの強化・多様化に向けて、インパクト投資に特化したESGファンドへの出資も行いました。

「GREEN×GLOBE Partners」は、今年の7月に設立しました。環境・社会課題に関心はあるものの、何をどう始めたらよいか迷っていらっしゃる中堅・中小企業のお客さまにも参加いただき、課題解決に向けたプロジェクトに取り組むためのコミュニティです。

先日、1万6千社を参加対象としたオンラインイベントで、「パートナーシップが環境・社会課題解決のあり方を変えていく」をテーマにセミナーを開催しました。

37ページにお進みください。

ESGへの取組 ②気候変動リスクへの対応

TCFDレポート

- 当社初のTCFDレポートを発行
(2020年8月)



開示推進項目に沿った取組高度化

項目	取組状況
ガバナンス 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ環境方針策定 ● 「サステナビリティ推進委員会」にて気候変動対応を経営戦略へ反映
戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ● 物理的リスク、移行リスクに関するシナリオ分析実施・開示 ● グリーンファイナンスの積極取組
リスク管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● トップリスクとして気候変動を選定 ● 気候変動に影響を与えるセクター別の方針策定
指標と目標 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2040年度を目途に石炭火力発電向け貸出残高ゼロ ● 2029年迄にSMBCのCO₂排出量を30%削減(2018年度比)

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 37
All Rights Reserved.

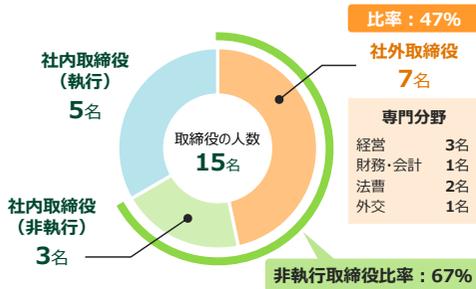
気候変動リスクへの対応としては、今年8月に当社として初めてとなる、TCFDレポートを発行しました。

これまで、物理的リスクや移行リスクによる影響額の試算や石炭火力発電向けの貸出残高ゼロ目標等、積極的に様々な取組を進めてきましたが、いまだ道半ばであり、ステークホルダーへの影響を踏まえつつ、高度化に努めてまいります。

38ページにお進みください。

ESGへの取組 ③ガバナンス

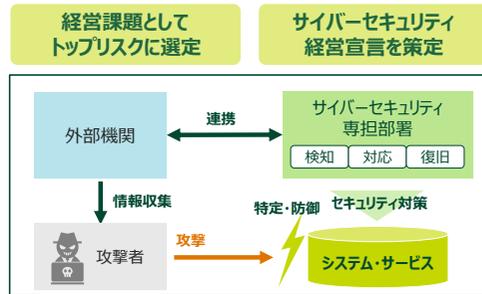
取締役の構成



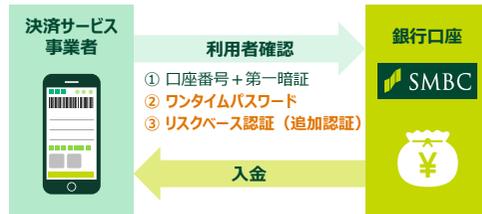
内部委員会

指名委員会		<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役 社内・非執行取締役
報酬委員会		<ul style="list-style-type: none"> 社内・非執行取締役 社内取締役
監査委員会		<ul style="list-style-type: none"> 社内取締役 外部有識者
リスク委員会		<ul style="list-style-type: none"> 委員長 委員

セキュリティガバナンス



キャッシュレス決済サービス連携時のセキュリティ強化



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 38

最後にガバナンスですが、本日は右側のセキュリティへの取組についてご説明します。

SMBCグループでは、経営上のトップリスクの1つにサイバーリスクを掲げるとともに、「サイバーセキュリティ経営宣言」を策定し、セキュリティの強化に努めてまいりました。

茲許話題になった決済サービス事業者を通じた不正出金に対しては、連携時の利用者確認において、口座番号と暗証番号だけでなく、ワンタイムパスワードや、リスクベース認証など、なりすましを防ぐための追加の対策を二重、三重に講じております。

とはいえ、サイバー攻撃は日々巧妙化・複雑化しています。今後もセキュリティガバナンスに対してはしっかりと経営資源を投入し、継続的な強化に努めてまいります。

(参考) サステナビリティ経営の加速

グループCEOによるイニシアチブの下、事業を通じた社会的課題の解決とSDGsの実現を目指す

サステナビリティ経営体制の確立

2018/10

サステナビリティ推進委員会設置

- 委員長 グループCEO
- 委員 グループ各社トップ

2020/4

経営理念改定

- お客さま 株主
- 従業員 追加 社会

サステナビリティ宣言策定

SMBC Group "GREEN x GLOBE 2030"

～お客さまとともに、人と地球の未来を創る～



(参考) ESGインデックス・イニシアティブ

ESGインデックスへの組入

GPIF選定インデックス



FTSE Blossom
Japan



2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)



FTSE4Good



2020
Sompo Sustainability Index



国内外イニシアティブへの賛同

WE SUPPORT



TCFD

TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES

Signatory of:



Principles for
Responsible
Investment



UNEP
FINANCE
INITIATIVE

PRINCIPLES FOR
RESPONSIBLE
BANKING



We
Support



DISCLOSURE INSIGHT ACTION



(参考) 外部からの評価

ディスクロージャー
2020年度 優良企業



ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2020年度 優良企業



(SMBC)



(SMBCE日興)



NIKKEI
Smart Work

★★★★ 2021



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 41



IV. 資本政策

続いて、資本政策について、ご説明します。
43ページにお進みください。

資本政策の基本方針

健全性確保、株主還元強化、成長投資をバランスよく実現



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 43

資本政策の基本方針は、これまでと変わりなく、健全性確保、株主還元強化、成長投資を、バランスよく実現してまいります。

44ページにお進みください。

資本の状況

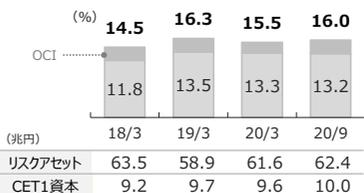
当面は、COVID-19影響を受けたお客さまへの対応を優先し、CET1比率9.5%程度で運営

CET1比率推移

財務目標：バーゼルⅢ最終化・除くOCI



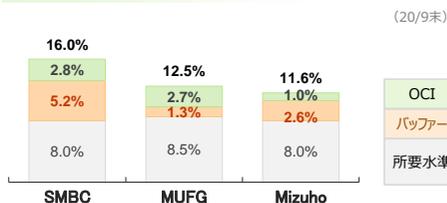
現行規制：完全実施基準



当面の資本運営（バーゼルⅢ最終化・除くOCI）



3メガ比較（完全実施基準）



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

資本の状況です。

中計の進捗で申し上げた通り、

CET1比率は当面9.5%程度で運営する方針としております。

20年9月末のCET1比率は9.7%と、このレンジ内の水準となっております。

45ページにお進みください。

株主還元策

累進的配当に基づき、期初予想通り、中間配当95円を実施

自己株取得は、COVID-19影響見極めや、トップライン増強に向けた資本活用のため、今回は見送り

	19年度	20年度予想	前年比
1株当たり配当	190円	190円	±0円
配当性向	37%	65%	+28%
自己株取得	^{19/5} 1,000億円	—	—
総還元性向	51%	—	—
ボトムライン	7,039億円	4,000億円	▲3,039億円

中間配当
95円

配当推移

(円)



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 45

株主還元です。

自己株取得については、5月に続いて、実施の判断を見送りとしました。

我々の株価は現在も非常に割安な水準にあり、私自身は実施したい思いもあります。

しかしながら、欧米の金融機関ははまだ自己株取得を凍結されていることを見ても、最終的なコロナ影響は、はまだ読み切れないと考えております。

クレジットコストは、上期の発生が想定より低水準に留まっており、下期にずれ込んで発生する可能性が相応にあります。

また、これから冬にかけてコロナが再拡大するリスクもあり、いったんは返済が進んでいるコロナ関連与信が、再び増加することも考えられます。

加えて、中計の財務目標達成に向けてのトップライン増強や、将来の成長につながる戦略・施策の推進のためにも資本を活用したいとの思いがあり、この判断に至りました。

もちろん、株主還元を強化していく方針に変更はありません。

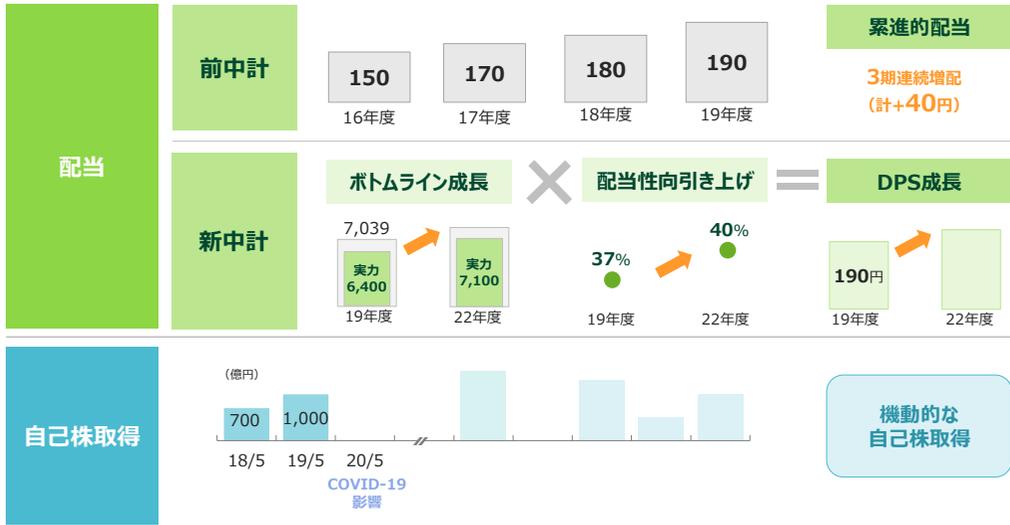
今年度は、大幅な減益予想にもかかわらず、累進的配当に基づき、前年度と同じ1株当たり190円の配当をお約束しておりますが、今回、中間配当として、その半分の95円をお支払いたします。

今後も、株主還元の方針は配当を基本とし、累進的に増やしてまいります。

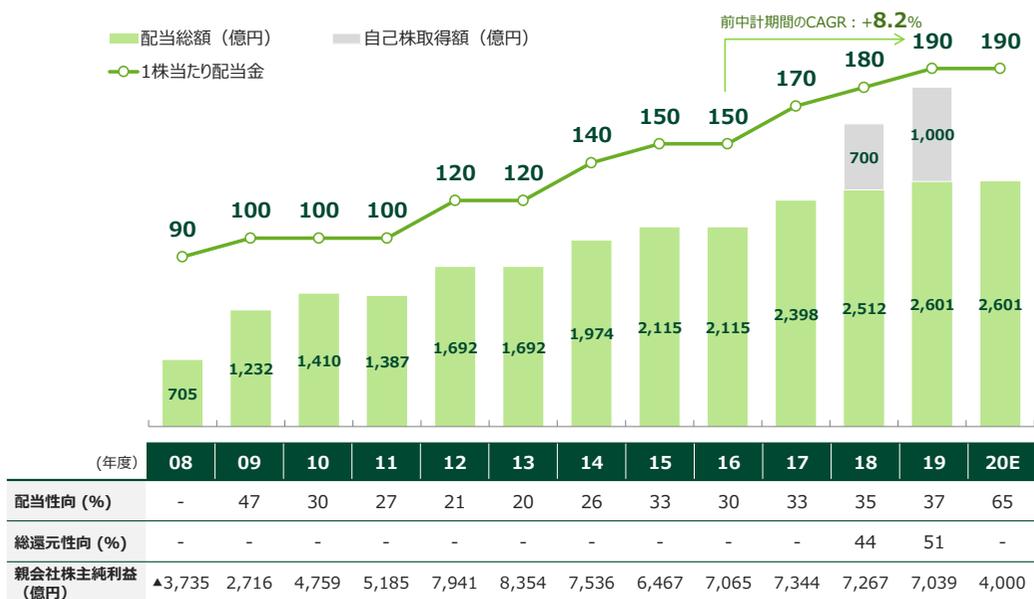
48ページにお進みください。

(参考) 株主還元強化

累進的配当を継続しつつ、ボトムライン成長と配当性向引き上げにより、更なる増配を目指す
自己株取得も機動的に実施

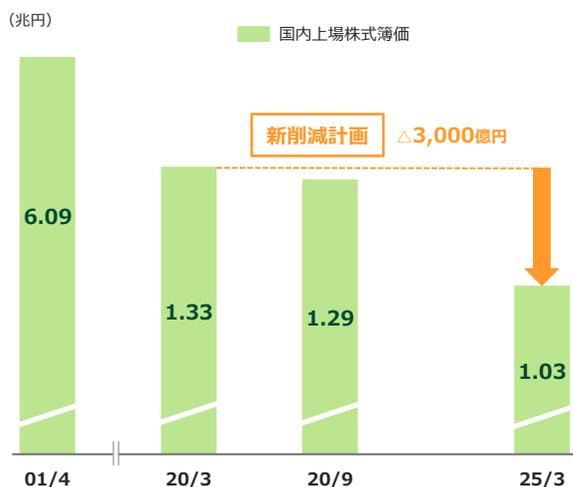


(参考) 株主還元推移



政策保有株式

2025年3月までの5か年で△3,000億円を追加削減。上期は△310億円を削減



削減状況

前削減計画 (15/9-20/9)	5,100億円
新削減計画 (20/3-)	
削減額	310億円
未売却の売却応諾残高	450億円
削減・応諾済総計	760億円

CET1^{*1}に対する株式の比率



*1 バンクIII完全実施基準、除くOCI

Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

48

政策保有株式の削減です。

5月に、20年4月からの5か年で△3,000億円削減する計画を発表しました。

緊急事態宣言に伴う活動の制約もあり、

思うように削減交渉を進めることができない部分もありましたが、

上期の削減額は△310億円で、計画比インラインの進捗となっております。

削減計画の達成に向けた取組を、今後も精一杯続けてまいります。



V. コミュニケーション活性化

最後に、私のCEOとしての取組について、お話しします。

50ページにお進みください。

コミュニケーション活性化

組織・年齢・職位を超えたオープンなコミュニケーションを活性化し、新しいアイデアやチャレンジが次々に湧き出す風土を目指す

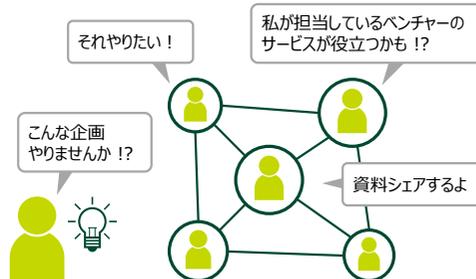
カタリバ2020

若手従業員とのランチミーティング



社内SNS

従業員同士が「知る」「つながる」「発信する」場を提供



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 50
All Rights Reserved.

CEO就任以来、従業員に「カラを破ろう」と呼びかけていることは以前にもお話ししましたが、これには、前例や固定観念に囚われず、新しいことに積極的にチャレンジしてほしいという思いがあります。

こうした新しいチャレンジができる組織を目指して、コミュニケーション活性化に向けた取組を行っています。

左側の「カタリバ2020」は、昼食の時間を利用して、グループの若手従業員とざくばらんな意見交換を行うものです。

そこでは、彼らがやってみたいことや様々な夢を語ってもらっていますが、面白いアイデアや新しい発想がマグマのように噴き出してきて、私自身にとっても非常に大きな刺激となっています。

右側の社内SNSは、そんなアイデアを持つ従業員たちが、仲間を見つけ、ともに夢や将来を語り合い、情報発信する場として立ち上げたものです。

私自身も時々コメントやいいね！をしています。そこでは、組織も年齢も職位も超えた、オープンなコミュニケーションが活発に行われています。

まだ始めて数カ月ですが、ESGをテーマにした自発的な勉強会や、次世代に対して銀行の魅力を伝えるためのディスカッション等の企画が生まれており、非常に頼もしく感じています。

事業化に向けた具体的な話が出てきた際は、積極的に支援していくつもりです。

最後に、上期は、コロナ禍への対応があったとはいえ、営業活動の量・質ともに十分ではなかったと言わざるを得ません。足許は戻ってきているものの、なお、我々の本来の実力水準には程遠いと感じております。

中計の最終年度である2022年度には、実力ベースのボトムラインで7,000億円超を目指す、と5月にお伝えしました。これを達成するためにも、活動量とビジネスの勢いを、早急に巡航速度へと戻し、グループ全体として、業績の更なる引き上げを図っていく所存です。

投資家・アナリストの皆さまには、引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。